

- 発見日時 : 11月29日(木) 11時20分頃
- 発生場所 : E1A新東名高速道路 下り線 岡崎SA OFFランプ
- 件名 : 平成30年度 中央自動車道 ■管内維持修繕業務
- 受注者 : 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
- 状況 : ○■HSC 岡崎SA基地へ、雪氷車両借用のため出動
(除雪車3台・散水除雪車1台・小型除雪車2台 計6台)
○車両借用後、岡崎SA基地から流出し、飯田基地へ回送予定。
○岡崎基地から岡崎SA OFFランプへ流入するため、路肩部に車両を後退させた後、発進しようとした際にハンドルを右に切りすぎ、後部緩衝装置の左側がガードレールに接触したものの。
- 被災状況 : <物的被害> 散水除雪車 後部緩衝装置左側(変形)
岡崎SA OFFランプ路肩側ガードレール(接触痕あるが補修の必要なし)
- 時系列 11月29日
 - 11:20頃 事故発生(車両誘導をしていた■HSCの社員から■HSCへ連絡)
 - 11:30 現場責任者より■ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)担当者へ連絡
 - 11:50 ■ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)より■HSCへ連絡
 - 17:00 緊急安全大会の実施
- 12月3日
 - 16:00 緩衝装置装着車両の安全運転実地教育を実施

雪氷車両によるGr接触事故

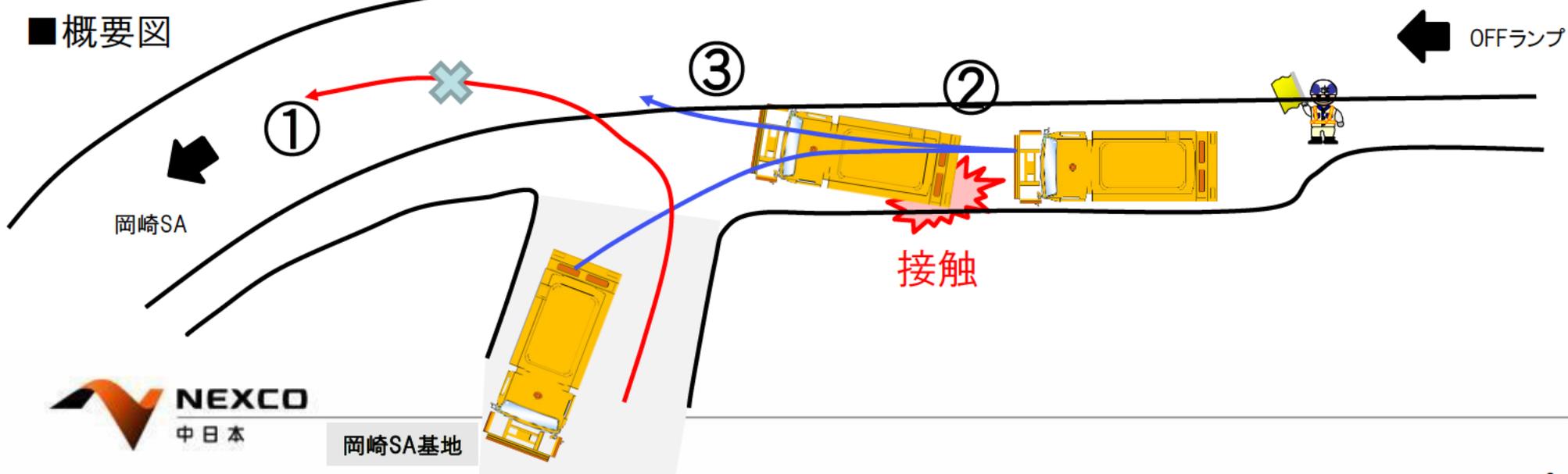
位置図



- ①岡崎SA基地から前進によるランプ流入は不可（鋭角のためランプ流入できない）
- ②ランプ路肩が広いので車両をバックさせ、一般車両の通行が切れるまで待機。
- ③ランプ流入時に発進する際、ハンドルを右に切りすぎ、左側ガードレールへ緩衝装置が接触した。



概要図



■物損状況

【散水除雪車】



要修理

【ガードレール】



◆原因

- ①車両を後退させる際に、一般車両通行側に近寄らないよう、路肩Grに出来るだけ幅寄せを行った。
- ②運転手は緩衝装置の装着された車両が、ハンドルを切った際に、車両後部がハンドルを切った反対側に振れることは分かっていたが、ハンドルを切りすぎたため接触した。
- ③右後方から来る一般車両に注意が行き過ぎて、左後方の確認が疎かになってしまった。
- ④先に出発した他の雪氷車両を待たせてはいけないと思い、なるべく早く仲間と合流したい気持ちが有った。
- ⑤緩衝装置は車両幅より狭いため、サイドミラーからは見えにくかった。
- ⑥本来入口となっている場所から車両を流出させた。

◆今後の対策

- ①③⑤車両が後退する場所は事前に確認し、車両の誘導には誘導員を付ける。
- ②③今回発生した事故の説明と緩衝装置の付いた車両や車両後方の長い(リアオーバーハング)車両の車両後方の振り幅に注意するよう教育を行う。
※参加者 維持修繕業務に携わる従事者(雪氷対策作業の従事者も含む)
- ④安全を最優先した作業を行うよう、繰返し教育を行う。
- ⑥岡崎SAから車両を借用する場合は、SA入口側(OFFランプ)から車両を流出させないようにする。出口側ルートがあるのでその通路を使用する。また、車両借用・返納の際のルート図を作成する。